

（寄稿）

NOMURA

建替えに伴う病院移転の実務

医療法人 社団美心会 黒沢病院（群馬県高崎市）は、開院 38 年目を向かえる 130 床の急性期病院であり、建替えに伴い約 800m 離れた場所に移転した。平成 21 年 7 月に人間ドック部門とともに病院から分離した「黒沢病院附属ヘルスパーククリニック」の隣地への移転である。また、移転に伴い、脳卒中センターを開設し、手術室の充実を図り、予防から救急医療の集積化を行っている。

今回は、建替え計画中や建築中の医療機関も多い中、何度も経験することのない建替えの中で特に移転（病院引越し）にフォーカスした。

移転は日常の業務に比べ遥かに多くの関係者を巻き込む一大プロジェクトと言っても過言ではない。実際の移転はわずか数日であるが、計画全体の周知、プロジェクトメンバー及び各部門への業務分担、各プロセスの実行手順の検討など、事前準備にかかる作業は、数え上げればきりがなく、しかもそれらを多くの関係者を巻き込みながら綿密に行う必要がある。当然のことながら、日常業務である患者へのケアは引越し中も行わなければならない。

実際、当院は、引渡しから 20 日間で新病院をオープンさせている。

本稿は、医療法人 社団美心会黒沢病院 庶務副部長 兼 メディカルフィットネス&スパValeoPro ゼネラルマネージャーの小林氏に寄稿いただいた。小林氏は前新病院建設室副部長で、建替え移転プロジェクトの推進役である。

小林氏には、短い期間でオープンすることが出来た要因など、これまでの経験を振り返りながらどこがポイントとなっているのか、移転の進め方はどうであったかなど、プロジェクトの立ち上げから物品の移動、そして患者の移動に至るまで、その実態をご紹介いただいた。

今回ご紹介いただいた事例は、医療機関すべてにそのままあてはまるものではないと推測されるが、具体的案実行段階で、貴重な資料といえる。現在、建築計画中のご担当者のご参考となれば幸いである。

2015 年 7 月 13 日

Healthcare note

(No. 15-08)

寄稿者名：
医療法人 社団美心会
黒沢病院 庶務副部長 兼
メディカルフィットネス&スパ
ValeoPro ゼネラルマネージャー
小林 大介

編集主幹：
野村ヘルスケア・
サポート&アドバイザー
市川 剛志

野村證券株式会社
金融公共公益法人部